

今日の聖書のことば

5月10日(日) 使徒言行録 15章

パウロとバルナバはエルサレムに寄り、人はユダヤの律法にすべて従わなくともクリスチャンであると認めた。パウロの第2回伝道旅行が始まった。同行者はシラスです。

5月11日(月) 使徒言行録 16章

パウロはマケドニア人の幻を見て、ヨーロッパへ渡る決心をし、福音宣教の門戸がヨーロッパに開かれた。マケドニアで、パウロとシラスは牢に入れられた。彼らはそこで祈りつつ、神の讃美の歌を歌った。

5月12日(火) 使徒言行録 17章

テサロニケでは、パウロの話を聞いた後、多くの人々がイエスを信じた。教会の礎が築かれた。パウロとシラスは、ベレヤで神のみ言葉を教え、アテネで関心をもった聞き手と語り合った。

5月13日(水) 使徒言行録 18章

コリントで、ユダヤ人がイエスを信じようとしなかったので、パウロは異邦人だけに教えたいと思った。神は、救いのよい知らせはすべての人のためのものであることをパウロは告げた。パウロは町々への再訪問計画、第3回伝道旅行に出かける。

5月14日(木) 使徒言行録 19章

エペソでみ言葉を語った。パウロの宣教は効果は大きかった。パウロと銀で偶像を作る者たちとの間に騒動が起こった。騒ぎが収まると、パウロは他の町々への訪問を続けた。

5月15日(金) 使徒言行録 20章

パウロの伝道旅行ではいろいろの事があった。人々もパウロたちも信仰を強められた。旅から帰る途中、パウロはエペソに立ち寄り、教会の指導者たちに会った。パウロは彼らに別れを告げ、彼の唯一と言われる講演説教をした。

5月16日(土) 使徒言行録 21章

パウロは人々の反対を押してエルサレムへ帰った。そこのユダヤ人たちは、パウロは偽の教師だと考えて、彼を殺そうとした。しかし、すべては神の摂理の内であった。千卒長が来て彼を捕らえ、繋がれて、彼は保護された。

ろば No. 1966

2020年 5月 10日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ルカ 1:28

天使は、彼女の所に来て言った。
「おめでとう。恵まれた方、主があなたと共におられる」

今日は母の日です。母への感謝が私たちの心を豊かにしてくれます。そして、私たちをして母に倣う者になりたいと思うのではありませんか。私は母への感謝と共に、愛する母親に倣う歩みをしたいと願う、私たちの思いを、私は大切にさせていただきたいと願うのです。

そして私たちの母への思いは、イエスの母マリヤに見させていただくのだと言えません。私は信仰者として、母マリヤの内に、母の日のメッセージを聞かせてと願っています。彼女が母親としてどのように、イエスと関わり、私たちの歩むべき道を示してくださったかです。

マリヤは天の御使いから「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」と伝えられたとき、「 MARIAはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。」(ルカ 1:28-29)とあります。

さらに驚くべきことを天の御使いから告げられます。「MARIA、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」(ルカ 1:30-32)と。この驚くべき出来事をマリヤはしっかり受け止め「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ 1:38)と答えたのでした。これを何だとお考えになりますか。

私たちはよく、「子はさずかりもの」との言葉を聞かせていただくことがあります。マリヤと天の御使いとの会話が私たちの間になくとも、私たちは誕生した子どもは、しっかり自分に託された天からの授かり物として受け止め、育てていると言うことはありませんか。大切に、大事に育み育ててこられたのではありま

せんか。

マリヤは御使いの言葉をしっかりと受け止めました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」と。だから、彼女はこの驚くべき出来事にも恐れはありませんでした。信じてイエスを受け止め、養育しました。理解できない出来事が起こったこともありました。その子イエスの生き方を大切にしてきました。

過越祭には毎年エルサレムに旅をしていたヨセフ家族は、12歳になったイエスを伴ってエルサレムに旅をしました。途中イエスが迷子になったとエルサレムに戻った両親は、神殿の境内で学者たちを語り合っていたイエスを見つけて、マリヤは「なぜこんなことをしたのですか。心配して探しましたよ」というとイエスは、「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」(ルカ2:41-49)と言われ、両親はイエスの言葉を理解することは出来ませんでした。イエスは両親とナザレに帰り両親に仕えられました。「母はこれらのことをすべて心に納めていた」(ルカ2:51)とあります。

ガリラヤのカナで結婚式に出られたとき、祝宴のぶどう酒がなくなって母マリヤがイエスに対策を求められた時、イエスは「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」と言われましたが、マリヤは「召し使いたちに、『この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください』」(ヨハネ2:1-12)と言われました。

そこにはマリヤがどのようにそのイエスを受け止め、向き合ってきたかでしょう。最後まで神を信じて、イエスと生きてきた。十字架の下にはマリヤの姿がありました。「イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。」(ヨハネ19:25)とあります。私はそこに母の日のメッセージを聞かせていただくのです。どこまでも神の約束を信じて祈るマリヤに、「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた」(使徒言行録1:14)マリヤに、私たちは、私たちが倣うべき母を見させていただくのです。お互い母の姿に倣い、主への感謝の日々を歩むことです。

..... < 聖書の学び・祈禱会 >

ナザレの人イエス・キリストの名によって 使徒言行録3：1-10

- * 聖書箇所を声を出して読む。
- * 聖書から教えられたことを、30文字で書き留める。

ペテロとヨハネは祈りのために上ったとき、生まれつき足の不自由な男が物乞いしているのに出会いました。ペテロとヨハネは彼をいやしてあげました。この弟子たちの奇跡には注目すべき一点が指摘されています。

それは「見る」という言葉です。日本語訳聖書では「見る」ですが、原語では文言が異なるということです。足が不自由な男は「目に入った」ペテロらを見て物乞いをしましたが、ペテロは「じっと彼を見つめて」から「私たちとしっかり向き合って見なさい」と言います。その言葉に足が不自由な男の目つきが変わりました。彼は期待を持って二人を見つめました。「ここに何かがある。」そこで奇跡が起こりました。このすばらしい出来事が起こりましたそこには、真剣に向き合った人たちの信仰を私たちはしっかりと見つめさせていただくのです。

